

放送テストのため文章の掲載を省略しました

【二】放送を聞いて、後の問いに答えなさい。

注意

- (1) 放送中は、声や音を出さないようにしなさい。
- (2) 問題文は一回、問いは二回読みます。問いを聞いたらすぐに答えを書きなさい。
- (3) メモを取ってもかまいません。1・2ページのあいているところをメモに使いなさい。

メモ

メモ

〔三〕 次の文章は、「僕」が級友と共に、入院中の「岩隆」こと岩本隆子のお見舞いに行った場面について書いてあります。よく読んで、後の問いに答えなさい。

著作権上の都合により未掲載

—3—

著作権上の都合により未掲載

—4—

著作権上の都合により未掲載

—5—

著作権上の都合により未掲載

—6—

著作権上の都合により未掲載

注
*1 設えた棚Ⅱすえつけられている棚。
*2 しびんⅡ病人などが、部屋やねどこの中で小便をするときに使う容器。

(1) — 線部①「怖かった。帰りたい、と思った。」とありますが、「僕」がこのように思った理由を説明したものとして最も適当なものを、次の中から選びなさい。
ア 何か話しかけると、ガンリユウにどなられそうだったから。
イ 活気がないガンリユウを前にして、違和感をおぼえたから。
ウ ひさしぶりにガンリユウに会ったので、緊張していたから。
エ ガンリユウがなぜ笑ったのか分からず、不気味だったから。

-7-

(2) — 線部②「ガンリユウが一人きりで過ごすこの世界」とありますが、それは具体的に何を指していますか。最も適当なものを、次の中から選びなさい。
ア 代わりばえのしない生活が続く退屈な世界。
イ 自分より年上の人々に囲まれた窮屈な世界。
ウ 本しか友達がいらないような現実離れた世界。
エ 病気で入院し自分を見つめて過ごす孤独な世界。
(3) — 線部③「早く……。」とありますが、「……」の部分に補うことができる言葉を考えて、**五字以上十字以内**で書きなさい。

(4) — 線部④「『終わりの会』でプリントが配られるときにように」とありますが、このときのガンリユウの様子とはほぼ同じことを別の表現で言いかえた部分を、文章の中から**五文字**でぬき出しなさい。
(5) — 線部⑤「色紙をひったくって、破ってしまいたくなった。」とありますが、それはなぜですか。その理由を説明している一文として最も適当なものを文章中からぬき出し、最初と最後の**五文字**（句読点をふくむ）で答えなさい。

(6) — 線部⑥「涙が目からこぼれ落ちた。」とありますが、ガンリユウは、色紙を受け取ってどのように思ったと考えられますか。最も適当なものを、次の中から選びなさい。
ア 級友たちは先生に強制されて色紙を書いたと思われるが、今まで自分がつくったたってきたので、それも仕方がないと思った。
イ 本当は級友たちから色紙をもらって感謝しているのに、それを素直に口にすることができない自分自身を反省し、今後は改めようと思った。
ウ 今まで自分がきつい態度で接してきた級友たちが、自分のためにあたたかい言葉の色紙に書いてきてくれたことが意外で、せつなく思った。
エ 自分の態度に反省を感じているはずの級友たちが、本心かどうか分からないきれいな色紙に並べていることが悔しく、顔をそむけたく思った。

-8-

- (7) —線部⑦「あたりまえのことなのに——あたりまえのことだから、胸が熱いものでいっぱいになった。」とありますが、これはどのようなことを言おうとしていますか。次の文の（ ）にあてはまる言葉を考えて、**五字以上十字以内**で書きなさい。

自分たちにとってはあたりまえのことが、（ ）
ガントリーウにとつてはあたりまえではないのだと思って、何とも言えない悲しい気持ちになった。

- (8) 文章中のA カッコウ・B クビスジを漢字に直しなさい。(ハネやハイなど
の点画もきちんと書くこと。)

【三】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(Ⅰ、Ⅱは段落の番号を示す)

Ⅰ アメリカとソ連^{*1}という二つの大国が冷戦で対立していた時期には、軍拡競争^{*2}に計り知れないほどの巨額^{*3}の資金が^ぎつぎ込まれた。戦車を作れば対戦車砲^{たいせんしやう}ができ、レーダーを作ればレーダーに感知されないステルスという飛行機^{たいせんしやう}ができる。昔から、軍艦^{ぐんかん}を作れば潜水艦^{せんすいかん}ができ、潜水艦^{せんすいかん}ができればそれを探知する海中レーダー^{かいちう}ができ、という具合^{ぐあい}にずっと続いてきた。

Ⅱ 宇宙探索^{たんそく}、宇宙航空開発も、まさに冷戦を背景にした軍拡競争の一部であった。ソ連が人工衛星を飛ばせばアメリカも飛ばす、ソ連が有人飛行をすればアメリカも有人飛行をする、ソ連がソユーズ^{*3}を出せばアメリカはアポロ^{*4}を出すという具合で、大量の資金が使われ、その資金は国民の税金で賄^{まかな}われた。その結果、われわれの毎日の暮らしに役立つものとしてな^あができたかといえば、汗^{あせ}は蒸発^{あせ}させるが雨水は通さないゴアテックスの雨合羽^{あまがっぱ}と、卵焼きでもバンケーキでも決^あしてくつかないというテフロン加工のフライパンだけだ^①というのはありふれた冗談^{じやうだん}なのだが、^①つぎ込まれた資金の莫大^{ばくだい}さは確かに冗談ではない。

③ このような軍拡競争は、生物の世界にも日常的に存在する。それは、生物どうしがいろいろな競争^{しやうきやう}状況^{じやうきやう}にあるからだ。一步でも相手を出し抜^ぬいた方が生き残れるときには、そのような遺伝的変異をもった個体が有利になるだろうが、同時に相手もそれを出し抜くことができれば、そちらのほうが有利になる。そこで、両方の生物に対して、^②はてしない変化の連続の可能性が出てくる。

④ たとえばカッコウという鳥と、カッコウに寄生^{*5}される鳥を考えてみよう。カッコウは、自分ではヒナの世話をせず、ウグイスなどの他種の鳥の巣に卵を産み込み、その種に世話をさせる。そんなものを引き受けさせられたほうは困ったもので、カッコウを追い払^{はら}う。そこで、カッコウは、非常に巧妙^{こうみょう}に卵を産み込む手段を開発する。まず、宿主の鳥のいないときを見計らって、その鳥の卵を一つ放り出し、そこへ自分の卵をあつという間に産み付けるのだ。

⑤ 帰ってきた宿主の鳥が卵を見分けられずに受け入れてしまうと、たいへんなことになる。カッコウのヒナは、宿主のヒナよりもひと足先に卵からかえり、まだ目もみえないうちに、宿主の卵を一つずつ背中に乗せて巣の外に放り出してしまふのだ。こうして自分だけになったカッコウのヒナは、宿主の親鳥の世話を一身に受けて大きく育つ。

⑥ そこで、宿主の鳥としては、卵を見分けたほうが自分のためだ。実際、いくつかの種では、カッコウの卵を見分けて放り出す。ところが、カッコウもそれに対応して宿主の卵と酷似^{*6}した卵を産むようになり、見分けるのはますますむずかしくなる。事実、異なる種の宿主に寄生しているカッコウどうしは、まったく異なるタイプの卵を産む。

⑦ これは、進化的軍拡競争の典型的な例だ。現在のところ、カッコウのほうが勝つて、一歩先を行っていることのほうが多い。

卵を見分けられないからだ。

B、見分ける種もあるということ、見分けるような遺伝的変異が出てきさえすれば、宿主のほうが勝てることを示している。

⑧ ところで、カッコウのヒナは巨大である。宿主の親の数倍になることもある。こんなお化けのように大きい子を、宿主はなぜ見分けられないのだろうか。一つの理由は、カッコウのヒナの鳴き声にある。これを録音して調べたところ、カッコウのヒナの鳴き声は、宿主の本来のヒナの一腹分^{ひとはら}、すなわち五羽^{ごわ}か六羽^{ろっぴ}の全部が一斉^{いっせい}に餌^{えさ}ねだりをしている声にそっくりなのである。

⑨ もう一つの理由は、^③宿主側^{★7}のリスクと進化の制限要因にあるようだ。自分のヒナとカッコウのヒナとをどうやって見分けるか。卵なら、自分の卵とカッコウの卵を同時に比べることができるが、カッコウのヒナは、他のヒナを放り出してしまふので、巢の中にはそれ一羽しかない。しかも、ヒナの段階になってから、もしも識別を誤って自分自身のヒナを拒否^{きよひ}することが起こると、それは宿主にとってはたいへんな損失である。そこで、宿主は、中途半端^{ちゅうたんぱんぱ}なヒナの見分けはしないほうがよい。合理的に考えればヒナを見分けた方がよいが、そういうことは進化で出てこなかった制限要因があるのだろう。

⑩ いずれにせよ、現時点で、この軍拡競争ではカッコウの方が勝っている場合が多い。その一つの理由は、カッコウにとってのほうが、宿主にとってよりも事態^④が切迫^{せつぱく}しているからである。ウグイスなどの宿主の鳥自身にとって、自分がカッコウにやられるチャンスは一生の間に二度とはないくらいだ。ところが、カッコウ自身にとっては、毎回の繁殖^{はんしよく}が成功するかしないかがすべてで、だましに成功するかどうかにかかっていることになる。

⑪ そこで、進化的軍拡競争がどうなるかは、双方^{そうほう}にとっての代替戦略^{だいたい}の余地^いがどれほどあるかということと、どちらにとって失うものが大きいかに依存^{いぞん}することになる。さて、国際社会の軍拡競争は、どういう原理で動いているだろうか。

(長谷川眞理子^{はせがわまりこ}『科学の目 科学のころ』による)

注 *1 ソ連^{ソビエト}社会主義共和国連邦^{れんぽう}の略称。一九一七年、ロシア帝国^{ていこく}で起こった革命

で誕生した世界初の社会主義国。アメリカ合衆国と並ぶ世界の超大国^{ちやうたいこく}であったが、

一九九一年に解体された。

*2 軍拡競争^二軍備を広げていく競争のこと。

*3 ソユーズ^二ソ連の宇宙船の名前。

*4 アポロ^二アメリカ合衆国の宇宙船の名前。

*5 寄生^二ある生物が他の生物に付き、そこから栄養や利益を得て生活すること。

*6 酷似^二非常によく似ていること。

*7 リスク^二予測される危険性。

(1) — 線部①「ありふれた冗談」とありますが、この「冗談」について説明したものととして最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア 雨合羽やフライパンには、資金がほとんどついやされていないことを理由に冗談としている。

イ パンケーキのパンとフライパンのパンをひっかけて、言葉のしゃれを作り出したことを冗談としている。

ウ 軍拡競争には双方が本気で取り組んでいたのにもかかわらず、おたがい冗談であると主張していたことを冗談としている。

エ 他にも様々な研究成果をあげたのに、雨合羽やフライパンなどの日用品しかできていないと述べていることを冗談としている。

(2) — 線部②「はてしない変化の連続」とありますが、この例が具体的に示されている段落を一つ選んで、段落の番号で答えなさい。

(3)

A

 ·

B

 に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、次の

中から選びなさい。

ア A Ⅱなぜなら B Ⅱしかし

イ A Ⅱもつとも B Ⅱとはいえ

ウ A Ⅱというの B Ⅱそして

エ A Ⅱというのは B Ⅱさらに

(4) — 線部③「宿主側のリスク」とありますが、このことを具体的に説明している部分を文章中から十五字以上二十字以内(句読点をふくむ)でぬき出しなさい。

(5) — 線部④「事態が切迫している」とありますが、どういうことですか。その説明として最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア カッコウは、宿主よりもヒナを育てあげる確率が低いということ。

イ カッコウは、宿主よりもヒナを育てあげる確率が高いということ。

ウ 宿主は、カッコウと同じぐらいヒナを育てあげる能力が低いということ。

エ 宿主は、カッコウと同じぐらいヒナを育てあげる能力が高いということ。

(6) この文章を内容の展開の上から三つの部分に分けるとすると、どうなりますか。
最も適当なものを、次の中から選びなさい。

ア ① ② | ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ | ⑩ ⑪

イ ① ② | ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ | ⑪

ウ ① ② ③ | ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ | ⑩ ⑪

エ ① ② ③ | ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ | ⑪

(7) 次の中から、この文章で述べている内容と合っているものを選びなさい。

ア 遺伝子研究をすすめることは、これからの軍拡競争を縮小していくための最も有効な手段である。

イ 軍拡競争という視点から鳥類の生態をみると、その生存競争にはヒトの場合と一致する点がある。

ウ ヒトには、他の生物と共通する点があるが、寄生する鳥が成長過程において進化できないという例はヒトにはない。

エ 進化と競争は絶えず変化を起こしていくものであり、その変化に対応できないものが絶滅の危機に直面する可能性が高い。